

教育長定例記者会見 会見録

日時：令和5年11月27日（月）13時30分～

場所：教育委員室

発表項目

- ・ 中学生・高校生ビブリオバトル三重県大会2023を開催します
- ・ 「郷土三重を英語で発信！－ワン・ペーパー・コンテスト－」を開催します

質疑事項

- ・ 中学生・高校生ビブリオバトル三重県大会2023を開催します
- ・ 県立夜間中学・紀南地域新高等学校の校名候補を選定しましたについて
- ・ 鈴鹿市の11歳男児置き去りにについて
- ・ 部活動の地域移行について
- ・ 「三重県夜間中学設置基本方針（仮称）」中間案について

発表項目

○ 中学生・高校生ビブリオバトル三重県大会2023を開催します

中学生・高校生がお気に入りの本を発表し、最も読みたい本を投票で決める書評合戦、「中学生ビブリオバトル三重県大会2023」、「高校生ビブリオバトル三重県大会2023」を開催いたします。今年度から高校生大会については、学校ごとの参加人数の上限をなくしましたので、希望するすべての生徒が地域大会や予選会から参加できるようになりました。今、三重県大会に向けて予選会を実施しているところです。開催日時は令和5年12月26日火曜日、場所は三重県津庁舎になります。大会に選手として参加するのは、中学生大会は事前に申し込みがあった13名、高校生大会は地域大会及び予選会を通過した12名になります。大会のルールですけれども、まず発表者が他の人に読んで欲しい本を5分間でプレゼンします。次に、聴衆がその本の魅力などについて質問します。最後に発表者全員のプレゼンが終わった後に、聴衆が一番読みたいと思った本に投票して優劣がつくということになります。チャンプ本及び全国大会出場者の決定方法については、まず中学生、高校生をそれぞれ2グループに分けて、会場の聴衆とオンラインの聴衆の投票数を合計して、最多票を集めた本をグループのチャンプ本とします。その後、2グループのチャンプ本について、決選投票を行いまして、票数が多かった方を県大会のチャンプ本に決定し、その本の発表者を全国大会の出場者とします。この大会には、会場またはオンラインのいずれかで聴衆として参加していただけますので、奮ってご応募いただければと思います。なお、全国大会ですけれども、資料の最後に参考として書いていますように、中学生大会は3月に滋賀県で、高校生大会は1月に東京で開催される予定となっています。

○ 「郷土三重を英語で発信！ーワン・ペーパー・コンテストー」を開催します

「ワン・ペーパー・コンテスト」は県内の中学生を対象にしたもので、郷土三重についての学習を深めて、その魅力を英語で発信できる力を育成することを目的とし、外国人観光客や県民に知って欲しいと思う三重の隠れた名所、名品、偉人や、有名な観光地の知られざる魅力等を英語でA4サイズ1枚にまとめてプレゼンを行うコンテストです。令和5年12月2日土曜日、三重県男女共同参画センターで開催します。参加するのは、県内公立中学校48校から応募のありました745作品の中から、教育委員会事務局の方で事前選考審査をしまして、そこで選ばれた17名の中学生になります。ワン・ペーパーの内容等について、1人5分程度英語によるプレゼンテーションを実施しまして、その良さを競います。そしてこの17名の中から、教育長賞1名、小中学校教育課長賞1名、みえびい賞1名を選び、表彰します。また、県内の観光施設等で配布予定のリーフレットに8つの作品を掲載することとしておりまして、これについても表彰いたします。このリーフレットは今年度1,000部印刷する予定です。参考までに、昨年度のリーフレットをお手元に配付してありますので、ご覧いただければと思います。

発表項目に関する質疑

○ 中学生・高校生ビブリオバトル三重県大会2023を開催します

(質) これいつからやっているのですか。

(答) 高校生大会は平成25年度からで、今年で11回目になるのですが、令和2年度が中止になりましたので、厳密に言うと10回目です。中学生大会は令和2年度からなのですが、その令和2年度が中止になっていますので、厳密に言うと3回目ということになります。

(質) だから令和2年度からと言うよりかは中学生の方は実質、令和3年度から。

(答) 実質は令和3年度からです。

(質) 令和3年度から実施して3回目ですね。

(答) はい。

(質) いずれも目的は、どういったことになりませんか。

(答) 今、読書時間というのがどんどん子どもたちの中で少なくなってきていますので、しっかりと読書への興味や関心を持ってもらいたいということでもあります。特に小中高と年齢が上がるに従って読書時間が減る傾向にありますので、しっかり中学生や高校生の読書に対する関心と呼び覚ましたいというのがあります。それとこれは本の内容を人にわかってもらうように表現するものなので、プレゼン能力も養われますので、一石二鳥の取組だと思っております。

(質) 年齢が上がるにつれて読書が減る傾向にあるというのは、これは何か根拠や数字はありますか。例えばどういうデータでわかっているとか。

(答 社会教育・文化財保護課) そうですね。全国学力・学習状況調査で、学校の授業以外に普段1日当たりどれぐらいの時間を読書していますかという質問紙もございますので、そちらで小中学校については分かりますし、それから高校生については独自の調査をさせていただいて、小学生より中学生、中学生より高校生が少ないとそういう状況が出ております。

(答) しかも、コロナ禍の中で、大分読書の時間が減っている傾向もあるので、我々としては、少し手を打っていかないといけないと思っております。

(質) 簡単に言うと、読書への関心やプレゼン能力の向上を目的にしていると。

(答) そうです。

(質) 今回、各校ごとの上限をなくしたというのがこれまでと違う。

(答) そうです。

(質) それ以外に改めたところとか新しい取組とかは。

(答) 今回変わっているのは、そこだけです。

(質) 結局、事前に申込みがあったのは中学生が13人でよろしいですかね。

(答) はい。

(質) 高校生は。

(答) 高校生は結構多いです。23校49名が参加しています。

(質) そのうち12名と。

(答) 12名が選ばれます。現在10名まで決まっているのでしたね。

(答 社会教育・文化財保護課) そうです。

(答) あと2人は予選会の方が終わっていません。

(質) 結局、上限をなくしたことでこの人数は増えたのですか。

(答) 人数は残念なのですけれども、若干減っております。

(質) 中学生も高校生も両方。

(答) 中学生は1人増えて13名になって、高校生は昨年度53名だったのですけれども、今年度は49名です。

その他の項目に関する質疑

○ 県立夜間中学・紀南地域新高等学校の校名候補を選定しましたについて

(質) 先日、夜間中学と紀南・木本の合併する高校の校名案が出まして、募集の数も数百だったかと思うのですが、改めて今回校名を絞った趣旨とといいますか、改めての募集があったことの受け止めというか、そういうところがありましたらお願いいたします。

(答) 希望と誇りを持てる校名ということで募集をしたのですが、なかなか良いのが集まったなと思っていて、どれも甲乙つけがたいものだし、地域の良さなんかもしっかり表現してくれていると思っています。これを選ぶのが大変難しいところなのですが、検討委員会の方々のご意見も聞きながら、事務局の中で趣旨に合うものを選

んだということです。【補足：紀南地域新高等学校の校名は校名選定委員会で選定しました】

(質) 改めて、それぞれタイミングが違うかもしれませんが、いつ頃までに校名を一案に絞って公表しようと思ってるのかというところがありましたら。

(答) それは年度内です。

○ 鈴鹿市の11歳男児置き去りにについて

(質) 先日の事件ですけれども、鈴鹿市内で小学生の子が3日間アパートに置き去りにされたというような事案があったと思うのですが、これもし県教委の方に何かこう情報が入っていたりとか対応したことがあれば、教えていただきたいのですけれども。

(答) 子どもを中心に我々は考えますので、いろいろ言われていますけれども、やはり危険のない状況にするのが普通だと思いますので、少し対応には疑問を感じるところがあるかなと思います。

(質) もし具体的にあれば、対応には疑問を感じるであれば、例えばどういうところに疑問を感じていますか。

(答) 具体的な状況まではわからないのですけれども、報道で見ている限りでは、子どもの抵抗があったので、一時保護をしなかったということが言われているみたいですが、本当に危険があって一時保護を検討するような状況であるのならば、子どもの抵抗云々ということで、一時保護を断念するというのはどうかというのがありますね。その具体的な状況はわからないので、断言はできないのですけれども。

(質) あとはその学校が、教育委員会さんなので、学校がこの間、例えばどう対応していたのかとか、それをきっかけに何か対応できなかったところがなかったかという点はいかがでしょうか。

(答) そこは状況を十分には把握してないのですけれども、いずれにしても虐待などの事象は、学校が一番気付きやすい立場にあるので、常日頃からそういう立場にあるから、子どもの貧困もそうですけれども、学校というのは、そういうリスクが一番気がつきやすい立場にあるので、しっかり目を光らせてほしいということは言っております。今回どうなのかというのは、またもう一度確認してみますけれども、十分でなければしっかり話を入れていきたいと思います。

(質) 今のところ、そうすると例えば何かこう通知を出したとか、聞き取りで、回答をという形になっているわけではない。

(答) はい。どちらかというと、子ども・福祉部を中心に動いていて、金曜日でしたか、会議もある中で、教育委員会もしっかり協力してくれというふうに要請を受けているので、その辺をしっかりとさせていただこうと今朝も話し合いをしたところです。

(質) 例の鈴鹿の件で、何らかの県教委としての情報なり、動きなりしたことがあった。

(答 生徒指導課) 事前には何もありませんでした。

- (質) この事件が報道された後、確認等は何もしていない。
- (答 生徒指導課) 問い合わせ等はさせていただいています。確認だけは。
- (質) 事後の確認だけということ。
- (答 生徒指導課) はい。
- (質) 例えば個人情報というかね、難しいところがあるかもしれませんが、例えば学校への登校の状況とか、登校した段階での子どもさんの状況がどうだったという情報は入っていないということですか。学校としてはどういう説明をしているのですか。
- (答 生徒指導課) 市の方からは、十分に登校しているお子さんではなかったということで、学校の方は気にかけて家庭訪問等はしていたと聞いています。
- (質) それは、事件があった当時の話。もうちょっと、9月頃くらいからの。
- (答 生徒指導課) そうです。9月頃から、保護されるまでの話。
- (質) 学校もおそらくそうすると、今の説明ですと、一定は把握されていたけれども難しいところがあったのかなと推察されますが。
- (答) ネグレクトなりそういうところまで把握していたかということ、していない感じですかね。
- (質) 何かこう例えばこういう点でいくと気付きとか、関係機関との共有というところで、今回の細かい事案についてはわかっていないながらも、今から何か対応していくという。先ほども、協力していくようにと会議で指示があつてなされるということですが具体的にどのようなことをされていくか、もしある程度あれば。
- (答 生徒指導課) 生徒指導課では、虐待の早期発見気付きリストというのを作っているのですが、それを改めて周知して、子どもたちの変化について気付くようにとということで働きかけをしたいと考えています。
- (答) 学校現場では、虐待なりネグレクトなり、いろんな気付きがあれば、自然に、福祉の機関とは、スクールソーシャルワーカーなんかもありますので、しっかり連携はできているのですが、場合によって出来ていないことがありますので、そういうことのないようにということでもしっかり徹底していきたいと思います。

○ 部活動の地域移行について

- (質) 部活動の関係でお尋ねしたいのですけれども、今、教員の働き方改革の一環で部活動の顧問を地域の方に任せる、移行するという流れが全国的にあると思うのですけれども、かたやその取組は非常にいい部分だと思う一方で、部活動、顧問をやりたいがために教員になるという方も一定いると思っていて、この辺りのバランスであったりだとか、教育長としての考え方、どのように考えているかということをお教えいただけますでしょうか。
- (答) 今、部活動の地域移行の話が進んでいるのは中学校だけです。中学校に関しては、どんどん学校が小規模化をしていく中で、部活動のそれぞれの参加する人数がどんど

ん減ってきて、子どもたちが十分に部活動をしていけないことが将来的に見込まれてきていますので、そのためにも地域に対して、部活動を移行していくという動きをしっかりと作らなければならないと思っています。教員の働き方改革とかは二次的なものでございまして、生徒のそういう部活動の機会を保障していくことが大事で、そのために近い将来を見据えて、地域に対する部活動の移行を進めていかなければならないと思っております。ただ、なかなか地域の方の受け皿が、各地域、県内も広くございますので、それぞれの地域で事情もあって、そこら辺りの仕組みの構築とか、上手くいかないところもあるので、それに関しましていろいろと各地域の事情も聞きながら、それぞれ進めているという状況です。各市町で協議会なんかを作って進めているところであります。

(質) これ今、中学校だけというお話でしたけど、今後、例えば高校であったり、そういう部分に波及していく可能性というのはどうですか。

(答) これは、各市町も我々も、すごい関心事でありますので、この間も国のスポーツ庁に行った時に、その辺りも聞いているのですが、今のところスポーツ庁の返答では高校はまだ考えていない感じです。

○ 「三重県夜間中学設置基本方針（仮称）」中間案について

(質) 夜間中学の基本方針中間案が出ているところですが、改めて教育長の夜間中学に対する期待と伺いますか、そういったお答えをいただければと思います。

(答) 義務教育を終わっていながらも学力と伺いますか、十分に義務教育の結果が身についていない方が結構お見えになりまして、我々もニーズ調査をしたところ、かなり県内におられるということがわかっております。その人たちの学び直しの場所をしっかりと作らなければならないということで、2年後に向けて我々も準備をしているところですので、できるだけ充実したものになるようにしていきたいと。その中で、今ちょうど学齢期の中でも不登校が増えているということもありまして、不登校の学校外での受け皿として、いろんな多様な学びの場を作らなければならないこともあって、その夜間中学の中で、それを学びの多様化学校ということも含めて検討していきたいということで、今回の基本方針の中でもそれは一定記述をしております。

以上、13時51分終了